

令和2年度 第2回 ～住宅設計実務者向け講習会～
JBN環境委員会「オンラインセミナー」開催のご案内

2020年10月12日

一般社団法人JBN・全国工務店協会 環境委員会委員長 渡邊 泰敏

平素は一般社団法人JBN・全国工務店協会の委員会活動に関心をお寄せいただき 心より感謝申し上げます。さて、JBN環境委員会では、第1回のオンラインセミナーに引き続き、別紙開催企画主旨に基づきオンライン湿気対策講座『潜熱を知り正しい設備設計力を磨く』講習会を企画させていただきました。下記の通り開催いたしますので、是非ともご参加頂きますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時：2020年11月4日（水曜日）13：30～17：30（オンライン入場13：00～）
2. 方 式：Zoomを使用したオンライン講習会
3. 対象者：住宅の設計実務者
内 容：オンライン湿気対策講座
『潜熱を知り正しい設備設計力を磨く』講習会



4. 講 師：おおとりけんせつ 鳳 建設 株式会社（岐阜県岐阜市）専務取締役 もり こうすけ 森 亨 介 氏

プロフィール：一級建築士 二級建築士（一社）ミライの住宅 代表理事
 一社）パッシブハウスジャパン東海地区エリアリーダー
 国際たくみアカデミー設備システム科 非常勤講師

国立岐阜工業高等専門学校卒業。建築環境工学の建築設備学専攻。快適で、メンテナンスコストまで考え抜いた、生涯コストが最も安くなる家づくりを提唱し、普及に努めている。世界最高峰省エネ基準、ドイツの「パッシブハウス plus」の認定を取った芥見南山パッシブハウスを設計

5. プログラム
 - ① 事務局からのお知らせ
 - ② 空気線図を基に潜熱について理解する。（約3時間）
 - ③ 除湿力を高めるためのエアコン選定と運転設定について学ぶ。（約1時間）
 - ④ 質疑応答（チャット機能を予定）
6. 受講資格/定員：本セミナーはどなたでもご参加できます。/ 定員 150名
7. 先着順 定員になり次第、受付を締め切らせて頂きます。
8. 参加費：JBN会員；1,000円/名（PDF資料・消費税込）
 一 般；2,000円/名（PDF資料・消費税込）

お振込み先 三井住友銀行 日本橋東支店 普通預金 7621327 シャ) ジェービーエヌ

※申込書 FAX 送信後、事前に上記口座にお振込み下さい（なお振込手数料はご負担ください）
 ※納入された参加費は原則として返金致しません。
 お振込み期限：10月30日まで。着金確認後11月2日にZoom招待メールを配信予定です。

参加申込書【申込期日：10/30（金）17：00】

環境委員会 セミナーに (JBN会員又は一般に Oを付け下さい)	JBN 会員 1000 円/名	参加を申し込み、左記金額を支払います		
	一 般 2000 円/名	参加を申し込み、左記金額を支払います		
会員番号	JBN 会員のみ記入下さい	会社名	参加者 氏名	
※E-mail	※必須：楷書で正確に記入ください		TEL	

ご記入いただいた個人情報は、本セミナーの受付業務のみに利用させていただき、その他の目的には利用いたしません。

JBN 岩崎 宛 返信 F A X 番号 (03) 5540-6679
 お問い合わせ先：一般社団法人JBN・全国工務店協会 事務局 岩崎 TEL:03-5540-6678

別紙：開催企画主旨

JBN環境委員会「オンラインセミナー」開催企画

一般社団法人 JBN・全国工務店協会
環境委員会委員長 渡邊 泰敏

今年は梅雨が長かったせいもあり、JBN 会員工務店様の住宅設計にかかわる実務者様から、湿気に対してのセミナー開催のご意見を沢山いただきました。

Q 値もそうですが、換気の熱損失負荷計算でよく使う $0.35\text{W}/\text{m}^3\text{K}$ とか $0.34\text{W}/\text{m}^3\text{K}$ という数字は乾燥空気の熱負荷になります。潜熱については完全に無視した数字です。

高断熱化で外皮から入ってくる熱が減り、家電の省エネ化で内部発熱も減り、更に日射遮蔽がちゃんとされるようになることで、夏の顕熱負荷は下がる一方です。

すると、昔は無視していても問題の無かった潜熱負荷の割合が相対的に増加。更に悪い事に、最新のエアコンになればなるほど、そして上位機種になればなるほどコンプレッサーを上手に間欠させ APF (COP) を稼ぐという、しがない商品開発になってしまっているため、エアコンの顕熱比は上がる一方で、除湿能力がどんどん低下していております。

要するに、「家の湿度が下がらない」という問題が起こります。本当に皮肉な話ですが、国の施策を真面目に聞いて、外皮性能を上げ、APF の高いエアコンを採用するほど湿気に悩まされるという結果になっています。

高気密高断熱の技術はやはり寒い所から出ておりますので、潜熱の負荷は軽視されがちです。PHPP や QPEX は潜熱も考慮されておりますが、冷房除湿設備の機種選定に使う用途の物ではないので、やはり多くの住宅実務者様は冷房と除湿の設備をどのように選ぶのかという問題に直面します。

大学で学ぶ建築設備の教科書には潜熱の負荷もきちんと計算しようという事が書かれており、一般建築の設備設計者様は普通に潜熱と顕熱に分けて負荷を考えるものですが、住宅でそれをやっている人は殆どいません。また、住宅で顕熱と潜熱をきちんと分けて負荷を出したとして、理想的な顕熱比で冷却除湿をする設備は非常に高価だったりして、なかなか使えません。

とすると、市販の安いエアコンを、頼むから除湿を頑張ってくれと色々工夫をしてお膳立てしてあげるのが精いっぱいとなります。

もうそろそろ住宅実務者は学ばなくてはなりません。何が原因で私たちは湿気に悩まされているのか。そして怒るべきではと思います。潜熱を考慮しない国のルールや、湿気を避けるような商品開発をするエアコンメーカーに対して。...

そんな事の参考になればと思い、今回の湿気対策講座を開催企画させていただいております。ぜひ 多くの実務者様にお申込みいただきたくご案内申し上げます。